

はじめに

この福祉教育推進ハンドブック『出会いのかたち』は、学校の教員や社会福祉施設の職員、市町村社会福祉協議会の職員などをメンバーとする岡山県福祉教育推進検討会が、議論に議論を重ね、いまやっと、皆さんの元に届けられる運びとなりました。

「福祉教育」とは、地域においてそこに暮らす人々が自立した生活を支える基盤として必要な環境を整えること、福祉サービスを利用しながら自立した生活を営むことができる、主体者としての人間を育てる取り組みです。

「自立した日常生活」が改めて問われ、これからの社会福祉が質を大切にしていくなかで、「自己選択、自己決定できる力」を育てていくこと。「生きる力」が重視されるようになってきました。

「生きる力」を養い、地域福祉の主体形成を図っていくという活動は、ある特定の機関や団体だけが担うというものではなく、また画一的な価値観を一方的に教え込むものでもありません。自らの生活や地域に目を向けて、どのような地域社会を創造していけばいいのかをみんなで考える。そうした実践のプロセスが重要なのです。しかし実践といっても、ただ福祉を取りあげ、体験だけにとどまる実践は学びの真髄ではなく形骸化してしまい、福祉的な素材を用いて授業を行うこと自体を目的としてしまうのです。そうしたことが、憐れみや同情といった、「貧困な福祉」観を生み出し、再生産する要因となるのです。

福祉教育とは、体験だけに止まらず、それを経験へと結びつけるものでなければなりません。何かを成そうとするとき、そこには命を燃やしている相手があり、そこに関わりを持つようとする私がいる。そうした人と人との間、人としての存在から人間としての実存にまで思いを馳せることが成長なのです。

一人ひとりの、存在への深い問いかけを経てはじめて、人と関わるという体験が受肉化され、血の通った経験、知恵へと昇華されるのです。

このハンドブックが、人を大切にする「福祉教育」の進展の一助となり、更に実りある活動が展開される礎と成ることを願うものです。

岡山県福祉教育推進検討会
委員長 平松正臣